平城遷都1300年記念アジアコスモポリタン賞 受賞記念奈良フォーラム

アジア 多様性の力

アジアの文化や社会科学の分野で功績があった個人や団体を表彰する国際賞「平城遷都1300年記念アジアコスモポリタン賞」の第3回授賞式典と記念フォーラム（読売新聞社など後援）が1月15日、奈良市の奈良春日野国際フォーラム甍で開かれた。

大賞は、経済改革を中心にミャンマーの民主化を進めた前ミャンマー大統領のテイン・セイン氏。経済・社会科学賞は、都市集積に注目して地域経済を分析する「空間経済学」の発展に大きく貢献した甲南大特別客員教授の藤田昌久氏。文化賞は、俳句愛好家の前欧州理事会常任議長（EU大統領）のヘルマン・ファンロンパイ氏にそれぞれ贈られた。

荒井正吾・奈良県知事の開会あいさつの後、前国連大使の吉川元偉氏が「国連におけるアジアの役割」と題して基調講演。続いて受賞した3氏がそれぞれ記念講演を行った。

アジアコスモポリタン賞 ジャカルタに本部を置く国際機関「東アジア・アセアン経済研究センター」（ERIA）が平城遷都1300年を記念して創設。大賞、経済・社会科学賞、文化賞の3分野がある。2年に1回、奈良で授賞式を開催している。

大賞

民主国家 5年で道筋

テイン・セイン氏 前ミャンマー大統領

軍の要職を歴任し、2007年に首相。11年に大統領に就任。民主化勢力との対話を進めた。昨年3月に退任。71歳。

私はミャンマー奥地の小さな村の出身で、幼い頃は教育環境が整っていなかった。大学進学が難しかったため、軍士官学校を選んだ。大統領になるとは夢にも思っていなかったが、国家の情勢と運命が、私を大統領にした。

2011年3月に就任した時の目標は、ミャンマーを穏やかで平和な民主国家にすることだった。若者のために良い将来を構築し、アジアの豊かさを共有できる国になってほしいと願った。

そこで三つの分野の改革を同時に行った。軍政から民政への移管、武装勢力との和解、中央統制型から自由な経済体制への移行だ。これらは関連性があり、一つの改革の成功が、他の改革に大きな影響を与えるからだ。

民主的な政府でこそ、経済発展や持続可能な平和を構築できる。一部の対抗勢力の国会参加を可能にし、多くの囚人に恩赦を行った。国民が自由に発言できるようにメディアに表現の自由を与え、ソーシャルメディアも幅広く使えるように携帯電話の利用可能地域を農村まで広げた。

政権が始まった頃の貧困率は26～30％。貧困を減らすため、国民の7割が住む農村地域の発展計画を導入した。ミャンマーには資源はあるが、経済立て直しに必要な資本、技術、人的資源が不足している。外国からの投資を呼び込むため、法律を改正し、投資環境を整えた。

国民生活の向上に向けては、電力や浄水、農業・畜産、雇用拡大など7分野の開発に取り組んだ。長期的な国家政策を策定する際、正確な統計や図表を活用できるよう、30年以上実施していなかった国勢調査も14年に行った。

経済発展の障害になっていた経済制裁の緩和も重要だった。米国や欧州各国に出向き、首脳らと会談を重ねて民主主義の導入と実践を説明した。その結果、国内外の投資が増え、観光も発展し、経済成長率は年平均約7％になった。この間の日本政府の協力には大変感謝している。

5年間の任期中、国内の和平構築、安定的な国家建設、全員参加可能な政治、社会経済の向上などが実現した。私の働きがアジア域内の諸国にも良い影響を与えたとすれば、非常にうれしい。

基調講演

発言力向上へ安保理改革

吉川元偉氏 前国連大使

奈良県生まれ。1974年に外務省入省。2013年から昨年6月まで国連大使。65歳。

国連大使としての経験を踏まえ、私の個人的な意見を述べたい。

国連で最も強力な権限を持ち、15か国からなる安全保障理事会のうち、アジアは3議席だ。国連加盟国がアジアの半分しかない西欧と米国は5議席を占める。アジアは加盟国数に見合った発言権を割り当てられていない。

平和維持活動（PKO）でも、日本や中国、インド、パキスタンなどアジアの国々は財政拠出と要員派遣の両面で大きな貢献をしている。

アジアの発言力を強化するためにも、安保理の改革が急務だ。日本はインド、ブラジル、ドイツと協力し、改革を目指している。理事国を25～26か国に拡大すれば、アジアの議席は6に倍増する。国連憲章の改正に必要な加盟国の3分の2の賛成が得られるように取り組みを進めなければならない。

アジアは世界経済のエンジンになりつつある。しかし、地域の安定なしに各国の安全保障の確保、安定した経済発展は実現できない。

北朝鮮の核・ミサイル開発を阻止するため、関係国が安保理制裁決議を履行しているかを監視する必要がある。領土問題については、平和的な交渉で解決するという国連憲章に基づき、法の支配を徹底することが大切だ。

日本が果たす役割も大きい。現在、国連通常予算の分担率は米国に次ぐ9・7％に上る。昨年からは安保理非常任理事国となった。通算11回目の選出は加盟国中で最多だ。アジア各国と協調しながら、国連で指導力を発揮することが求められている。

経済・社会科学賞

知識創造社会の源泉

藤田昌久氏 甲南大特別客員教授

京都大工学部卒。米ペンシルベニア大教授、京都大教授、京都大経済研究所長、日本経済学会長などを歴任。2007年から現職。73歳。

21世紀は「アジアの世紀」と呼ばれる。アジア開発銀行の予測では、2050年にアジアのGDPは世界の52％を占め、欧州全体の3倍、北米の4倍になるという。

しかし、楽観はできない。トランプ米大統領の登場で環太平洋経済連携協定（TPP）には赤信号が点灯した。他の11か国は米国を根気強く説得していくべきだ。

一方、アジアが発展し続けるためには、サプライチェーン（供給網）の発達と諸国間の賃金格差を活用した「世界の工場」から、アジア全体が知識創造社会の世界的な中心に脱皮する必要がある。

そのためには、人工知能やロボット、様々なモノをインターネットにつなげる「IoT」などを利用して先端的な生産拠点をつくると同時に、金融や資産を含む質の高い市場を構築しなければならない。平和を維持し、国際協力のもとに多様性を促進しながら経済統合を進めていくことが不可欠だ。

アジアは民族、伝統、価値観、宗教、言語、文化において非常に多様性に富んだ地域であることを強調したい。多様性は知識創造社会に向けた大きな潜在力だ。欧州の発展の源泉も、多様な文化、異なった言語が狭い地域にたくさんあることだと思う。

なぜ多様性と文化が知識の創造につながるのか。一人ひとりの頭脳や社会全体の「脳力」の多様性が相乗効果を生むからだ。「三人寄れば文殊の知恵」というが、共通知識が肥大化すると相乗効果は弱まり、「三年寄ればただの知恵」になりかねない。

旧約聖書の創世記にある「バベルの塔の物語」で、一つの言語で統一された人類は神に挑んで塔の建設を始め、怒った神は多数の異なった言語を与えて人類を分散させた。それは罰だったのか。

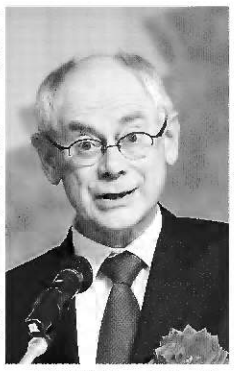
バベルの塔から追放された後、時間とともに各地に独自の文化が形成され、地域間の協働が始まった。多様な文化が多くの知識を生んだのだ。罰に見せかけての天恵だったと言えるだろう。

私たち人間は地球全体の非常に多様性に富むエコシステムの中で生かさせてもらっている。それに対する尊敬と敬意を払いながら、多様性の中で発展していくべきだ。

文化賞

俳句 現代の混乱解く

ヘルマン・ファンロンパイ氏 前欧州理事会常任議長（EU大統領）



元ベルギー首相。2009年、初代欧州理事会常任議長に就任。2期5年務めた。これまでに俳句集を2冊出版している。日EU俳句交流大使。69歳。

俳句は世界遺産の一部と言ってもいい。昨年はアフリカで俳句コンテストがあり、閉会式に私も出席した。もはや日本の専有物ではなく、世界の国々、特に若者にとってクールなものとなっている。

17音で身の回りの出来事や気持ちを表現する俳句は、誰もが持つ素朴な感情を語り、自分と自然、季節、他者との関わりを詠む。その簡潔さは道徳的な価値や誠実さ、真正性でもある。事実かどうかが二の次にされる「ポスト真実の時代」から、かけ離れた存在だ。

俳句を詠む人は、自らが自然や宇宙に依存する存在であることを忘れない。国と国との関係でも、私たちは相互に依存していることを認識しなくてはならない。同じ船に乗って運命を共にしているのだ。こうした認識から欧州連合（EU）が生まれた。

世界では今、不安や怒り、憎悪が広がり、米国や英国の政治の場で顔を出している。皮肉に満ちた世界で俳句は無邪気で素朴に見えるかもしれない。しかし、その無邪気さは、世界をより良いものにしたいという希望を示すものだ。地に足を着けたまま、別の世界に行きたいという気持ちを表す。これこそが世界中で俳句が愛されている理由だ。決して偶然ではない。俳句こそが現代の混乱を解く答えになっていると思う。

古代ギリシャ・ローマで徳の高い人が求めた「真・善・美」は、西洋だけのものではない。グローバル化によって、私たちは文明や文化の最良の部分をお互いに知ることができるようになった。アジアは経済成長が著しい地域であると同時に、松尾芭蕉の俳句に表される感情に普遍性があるように、文化的インスピレーションの場でもある。

「陽を海を星を見る者　和を愛する」。EUがノーベル平和賞を受賞した時、オスロの授賞式で私が詠んだ句だ。太陽、海、星を見る人は、平和を愛する人なのだ。

「友となれば　朝日も星も　同じ空」は、日本とEUの親善を詠んだ。昇る太陽は日本、輝く星はEU。これらが同じ青い空の上で輝いている。親友になれば奇跡を起こすことができる。俳句を通じ、皆さんは物事の本質を私たちに教えてくれた。

あいさつ

誇りと名誉の極み

荒井正吾・奈良県知事

奈良は国際性で成立した都であり、多くの外国の方々が訪れ、大陸や韓半島の文明を取り入れることによって、日本の国ができました。そのことに感謝を表すために何かしたいという思いが、賞には込められています。今回も素晴らしい方々が受賞し、来県いただいたことに感謝します。奈良の誇りと名誉の極みです。

新たな共同体へ一歩

西村英俊・ERIA事務総長

多様性こそ21世紀のグローバル社会におけるキーワードです。多様性が人と人とのつながりを生み出し、イノベーションを触発し、文化融合と相互理解を促します。それぞれの受賞者の精力的な活動と尽力は、着実に新しい価値を創造し、将来の東アジア共同体形成に向けての新しいフェーズを切り開くでしょう。

主催　奈良県、東アジア・アセアン経済研究センター　後援　読売新聞社など

国文祭 障文祭 なら2017
9.1 2017 FRI → 11.30 THU

総合フェスティバル
《オープニング》
9月2日(土) 会場：東大寺大仏殿前
《フィナーレ》
大和のまつり(仮称)　11月25日(土) 会場：奈良県南部
閉会式　11月26日(日) 会場：奈良県文化会館

国際交流事業
「NARA・国際交流フェスティバル(仮称)」など、音楽等による交流で多様な日本文化を発信

やまとし うるはし おもしろし

障害者交流事業
「さわって楽しむ体感展示」など、障害のある人もない人もともに楽しめるイベントを実施

シンポジウム事業
「フォーラム・NARA」など、様々なテーマでシンポジウムを開催

分野別フェスティバル
伝統文化・歴史文化・音楽・美術・演劇など、奈良県内全39市町村で多彩な事業を展開

第32回国民文化祭・なら2017
第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会
全国初の一体開催！ 奈良から新たな文化を発信

SNSで最新情報発信中！ YouTube イメージソング『やまとし うるはし』公開中！ 国文祭 障文祭 なら 検索

NARA PREFECTURE 奈良県

主催：文化庁、厚生労働省、奈良県、第32回国民文化祭奈良県実行委員会、第17回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、市町村、市町村国民文化祭実行委員会、文化芸術団体　問 第32回国民文化祭奈良県実行委員会事務局／第17回全国障害者芸術・文化祭実行委員会事務局（奈良県地域振興部国民文化祭・障害者芸術文化祭課内）TEL.0742-27-8476

ナラプラス
ダウンロード無料！
奈良の魅力や情報をたっぷり紹介!!
ステキなプレゼント企画実施中！
「ナラプラス」は
奈良県の公式スマホアプリです。
App Store からダウンロード　Google Play で手に入れよう
※Apple および Apple ロゴは米国その他の国で登録された Apple Inc. の商標です。App Store は Apple Inc. のサービスマークです。
※Google Play および Google Play ロゴは、Google Inc. の商標です。
詳しくは…
奈良県庁 広報広聴課☎0742-27-8325
または ナラプラス 検索 で検索！
奈良のイベント情報も満載！